

予備調査内容について

1. 予備調査内容

(1) 調査の目的

「日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場基本構想（以下、基本構想）」を踏まえて、今後の基本計画等で検討する事項のうち早期に検討する必要がある事項について予備調査を実施する。

その他の調査については、今後、基本同意が得られた段階で主要となる地質調査や環境調査を実施する。

(2) 測量調査

建設候補地の地形を把握し、詳細な配置図等を検討するために測量調査を実施する。基本構想までは国土地理院が公表している地理院地図（10m 毎の等高線の地図）で配置検討を行ってきたが、測量調査を実施することにより、1m 毎の等高線まで地形を把握することが可能である。測量調査は建設候補地全体を対象として実施する。

測量調査を踏まえた配置図等の検討により、最終処分場の形状や概算工事費等を詳細に把握することが可能である。

表 1 測量調査の内容及び目的

項目	調査地点	調査時期	目的
測量調査	建設候補地全体	令和 5 年度前半	地形の詳細把握 配置計画等の検討

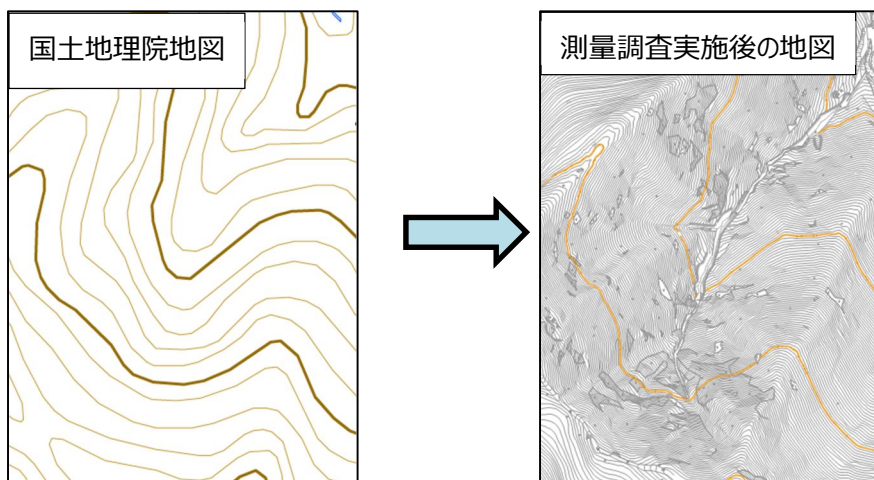


図 1 測量調査結果のイメージ



写真 1 測量調査状況の例

(3) 地質調査

建設候補地の地表地質調査の状況及びボーリング調査等により、砂、粘土、岩などの性質や硬さの地質区分、地下水の状況等を把握する。この地質調査結果により、最終処分場施設の安全かつ環境保全を考慮した施設設計とするための設計条件を把握することが可能である。

予備調査の段階では建設候補地全体の状況を把握するため、3地点程度で調査することを想定している。今後の計画や設計段階では、さらに地点数を増やして詳細な調査を行う。

表 2 地質調査の内容及び目的

項目	調査地点	調査時期	目的
地表地質調査	建設候補地全体	令和5年度前半	建設候補地の地形・地質状況および表流水・湧水等の状況を把握する。
ボーリング調査	3地点程度	令和5年度前半	ボーリング掘削（径66mm）を行い地質・岩盤状況、地下水状況等を把握する。
標準貫入試験	3地点程度	令和5年度前半	地盤の硬軟や締まり具合の指標となるN値を求め、土質工学的な検討を行う際の基礎データを得る。



写真2 地質調査状況の例（左：掘進状況、右：ボーリングコア写真）

(4) 気象調査

気象調査（降水量）を実施し、建設候補地における降雨の状況を把握する。調査は建設候補地の代表地点 1 箇所で 1 年を通して連続的に測定可能な機器を設置する。

気象調査結果は、浸出水の発生量解析や雨水排水計画（豪雨時含む）を検討するための基礎データとする。また、気象調査により得た降水量データを基に近隣の気象観測所の観測データに補正をかけ、より長期間の降雨データで解析を行う。

表 3 気象調査の内容及び目的

項目	調査地点	調査時期	目的
気象調査	建設候補地内の 1 地点	通年観測	建設候補地における降水量を把握し、浸出水発生量解析や雨水排水計画に用いる。



出典：気象庁ホームページ

写真 3 雨量計の例（左：全体、右：内部）

(5) 景観調査

周辺道路や民家等から建設候補地の見え方を調査し、最終処分場が実際に建設された場合の影響を把握する。予測は周辺民家や道路から最終処分場の施設が見えるかどうかに加え、フォトモンタージュ法等による景観の変化を予測する。

表 4 景観調査の内容及び目的

項目	調査地点	調査時期	目的
景観調査	周辺道路等の最終処分場が見える地点	令和5年度前半	周辺道路等における最終処分場の見え方を予測する。



出典：松阪市新最終処分場施設整備事業に係る環境影響評価準備書

写真4 景観調査の例（左：建設前、右：建設後の予測）

(6) 排水先調査

最終処分場敷地内に降った雨水や浸出水処理水の排水先について検討する。測量調査や気象調査の結果を基に具体的な排水計画を立案する。また、豪雨対策としての防災調整池の規模についても検討を行う。

表 5 排水先調査の内容及び目的

項目	調査地点	調査時期	目的
排水先調査	下流河川・水路	令和5年度前半	測量調査や気象調査の結果を基に雨水や浸出水処理水の排水先を検討する。 防災調整池について検討する。

2. 予備調査実施スケジュール

予備調査実施スケジュールを表 6 に示す。令和 5 年度の前半に測量調査、地質調査、景観調査、排水先調査を完了する予定である。気象調査は通年的に観測を続ける予定である。気象調査以外の調査については 8 月に調査結果の報告を行う。気象調査は通年的な調査となるため 3 月の地元説明会で報告を行う。

表 6 予備調査実施スケジュール

調査項目	令和 4年度	令和 5年度												
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
測量調査		→												
地質調査		→												
気象調査		→												
景観調査		→												
排水先調査		→												
(地元説明会)	●					●							●	

表 7 予備調査内容のまとめ

項目		調査地点	調査時期	目的
測量調査		建設候補地全体	令和 5 年度前半	地形の詳細把握 配置計画等の検討
地質 調査	地表地質調査	建設候補地全体	令和 5 年度前半	建設候補地の地形・地質状況および表流水・湧水等の状況を把握する。
	ボーリング調査	3 地点程度	令和 5 年度前半	ボーリング掘削（径 66mm）を行い地質・岩盤状況、地下水状況等を把握する。
	標準貫入試験	3 地点程度	令和 5 年度前半	地盤の硬軟や締まり具合の指標となる N 値を求め、土質工学的な検討を行う際の基礎データを得る。
気象調査		建設候補地内の 1 地点	通年観測	建設候補地における降水量を把握し、浸出水発生量解析や雨水排水計画に用いる。
景観調査		周辺道路等の 最終処分場が 見える地点	令和 5 年度前半	周辺道路等における最終処分場の見え方を予測する。
排水先調査		下流河川・水路	令和 5 年度前半	測量調査や気象調査の結果を基に雨水や浸出水処理水の排水先を検討する。 防災調整池について検討する。